

2025年度 シラバス

科目名	社会の理解Ⅱ						
担当教員	坂入 啓太						
実務経験	無 / <u>有</u> (居宅介護支援事業所において介護支援専門員として実務経験あり						
学科学年	介護福祉科/2年		<u>前期</u> ・ 後期	<u>講義</u> ・ 実習	単位数		時間数 30
授業目標	①地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識が身につく。 ②日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解できる。 ③介護実践に必要な観点から、介護保険制度や障害者福祉の基礎的な知識が身につく。						
授業内容	第1回	オリエンテーション 社会と生活のしくみ① 生活の基本機能					
	第2回	社会と生活のしくみ② ライフスタイルの変化					
	第3回	社会と生活のしくみ③ 家族の機能と役割、社会・組織の機能と役割					
	第4回	社会と生活のしくみ④ 地域社会、地域社会における生活支援					
	第5回	障害者保健福祉の動向① 現状と歴史					
	第6回	障害者保健福祉の動向② 動向 障害者保健福祉に関する法体系①					
	第7回	障害者福祉に関する法体系② 法的定義、支援制度 障害者総合支援法①					
	第8回	障害者総合支援法② 財源と利用者負担、種類と内容、手続き、支援区分の認定					
	第9回	障害者総合支援法③ 相談支援事業、障害児を支える障害者総合支援法					
	第10回	介護実践に関連する諸制度① 虐待防止、サービス利用に関する制度					
	第11回	介護実践に関連する諸制度② 消費者保護、個人の権利を守る制度					
	第12回	介護実践に関連する諸制度③ 保健医療に関する制度・施策					
	第13回	介護実践に関連する諸制度④ 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度					
	第14回	介護実践に関連する諸制度⑤ 地域生活を支援する制度					
	第15回	前期定期試験					
	使用教材	最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解(第2版) / 中央法規出版					
評価方法	筆記試験(80点) 小テスト・課題(20点)						
	授業の取り組み姿勢などから必要に応じ5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科 目 名	ビジネスマナーⅡ						
担当教員	福田 弘美						
実務経験	無 / 有 ()						
学科学年	介護福祉科2学年	前期 ・ 後期	講義 ・ 実習	単位数	/	時間数	15
授業目標	基本的なビジネスマナーを理解し身に付ける。 就職に向けての心構えやマナーを身につける。						
授業内容	第 1回	履歴書の作成①（志望の動機・趣味・特技）					
	第 2回	履歴書の作成②（履歴書の書き方）					
	第 3回	履歴書の作成③（履歴書の書き方）					
	第 4回	面接の仕方（基本動作）					
	第 5回	面接の仕方（面接時の受け答え方・話し方）					
	第 6回	求人票の見方・就職してからの心構え					
	第 7回	面接の練習					
	第 8回	まとめ（後期定期試験）					
	第 9回						
	第10回						
	第11回						
	第12回						
	第13回						
	第14回						
	第15回						
使用教材	適宜プリント配布						
評価方法	定期試験 100点						
	授業の取り組み姿勢などから必要に応じ5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
	菅井	石川	石川 繁

2025年度 シラバス

科目名	コンピューター実習						
担当教員	菅井 裕美						
実務経験	無 / (有) (電子機器製造会社で技術職として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科2年	前期 ・ 後期	講義 ・ 実習	単位数		時間数	30
授業目標	Word、Excel、PowerPointの基本的操作を習得する。						
授業内容	第 1回	パソコン操作の基本					
	第 2回	Wordの基本、入力操作の基本					【Word】
	第 3回	書式設定					【Word】
	第 4回	表の作成					【Word】
	第 5回	グラフィック要素1					【Word】
	第 6回	グラフィック要素2					【Word】
	第 7回	PowerPointの基本					【PowerPoint】
	第 8回	素材の利用					【PowerPoint】
	第 9回	メディアの利用とアニメーション効果					【PowerPoint】
	第10回	グリーティングカード作成					【PowerPoint】
	第11回	Excelの基本、セル操作の基本					【Excel】
	第12回	表の作成と編集					【Excel】
	第13回	数式と参照					【Excel】
	第14回	グラフ機能と素材の挿入					【Excel】
	第15回	関数					【Excel】
使用教材	学生（留学生）のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint						
評価方法	出席率						
	課題提出						

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科目名	介護の基本Ⅲ						
担当教員	荒井 るり子						
実務経験	無 / <u>有</u> (高齢者施設において介護福祉士として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科 2年	前期 ・ 後期	講義 ・ 実習	単位数		時間数	30/60
授業目標	①介護におけるリスクマネジメントの具体的な必要な場面がわかり、安全確保の基礎的な知識や事故への対応を理解することができる。						
	②保健・医療・福祉に関する多職種の専門性や役割がわかり、他職種協働による介護実践の方法が具体的にわかる。						
授業内容	第1回	オリエンテーション 介護における安全					
	第2回	介護における安全の確保とリスクマネジメント① 介護における安全の確保					
	第3回	介護における安全の確保とリスクマネジメント② リスクマネジメント					
	第4回	介護における安全の確保とリスクマネジメント③ 事故防止のための施策					
	第5回	介護における安全の確保とリスクマネジメント④ 感染に関する知識 その1					
	第6回	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤ 感染に関する知識 その2					
	第7回	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥ 安全な薬物療法の視点					
	第8回	協働する多職種の機能と役割① 他職種連携・協働の必要性					
	第9回	協働する多職種の機能と役割② チーム作り、他職種のかかわり					
	第10回	協働する多職種の機能と役割③ 他職種協働に求められるコミュニケーション能力					
	第11回	協働する多職種の機能と役割④ 医療職の役割と機能①					
	第12回	協働する多職種の機能と役割⑤ 医療職の役割と機能②					
	第13回	協働する多職種の機能と役割⑥ 保健・福祉職の役割と機能					
	第14回	協働する多職種の機能と役割⑦ 他職種連携・協働の実践					
	第15回	前期定期試験					
使用教材	最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ(第2版) / 中央法規出版						
評価方法	筆記試験 100% (前期40%)						
	授業の取り組み姿勢などから必要に応じ5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科 目 名	介護の基本Ⅲ						
担当教員	荒井 るり子						
実務経験	無 / <u>有</u> (高齢者施設において介護福祉士として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科 2年	前期 ・ 後期	<u>講義</u> ・ 実習	単位数		時間数	30/60
授業目標	介護従事者の健康管理や労働環境の管理について、具体的に理解できる。						
授業内容	第1回	オリエンテーション 介護従事者の安全					
	第2回	健康管理の意義と目的① 働く人の健康や生活を守る法制度					
	第3回	健康管理の意義と目的② 健康問題、健康管理					
	第4回	こころの健康管理① 介護従事者にとってのこころの健康問題					
	第5回	こころの健康管理② ストレス、心の病気					
	第6回	こころの健康管理③ 職場で取り組むこころの健康管理					
	第7回	身体の健康管理① 介護従事者の身体の健康障害の現状 その1					
	第8回	身体の健康管理② 介護従事者の身体の健康障害の現状 その2					
	第9回	身体の健康管理③ 介護従事者の身体の健康障害の現状 その3					
	第10回	身体の健康管理④ 介護従事者の身体の健康障害の現状 その4					
	第11回	労働環境の整備① 労働条件がかかわる労働環境					
	第12回	労働環境の整備② 介護従事者の労働災害					
	第13回	労働環境の整備③ けがと労働環境の関係【事例】					
	第14回	労働環境の整備④ 労働環境を整備して、けがを予防する					
	第15回	後期定期試験					
使用教材	最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ(第2版) / 中央法規出版						
評価方法	筆記試験 100% (後期60%)						
	授業の取り組み姿勢などから必要に応じ5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科目名	コミュニケーションⅡ					
担当教員	田井 朋子					
実務経験	無 / <u>有</u> (高齢者施設で介護福祉士として実務経験あり)					
学科学年	介護福祉科2学年	<u>前期</u> ・ 後期	<u>講義</u> ・ 実習	単位数		時間数 30
授業目標	1. 家族との関係性の構築やチームケアを実践するための基本的なコミュニケーション技術を理解することができる。 2. 情報の活用・管理・共有化と記録の意義を理解し、その具体的方法を実践できる。					
授業内容	第 1回	講義ガイダンス・障害に応じたコミュニケーションの支援				
	第 2回	家族と協働関係の構築、家族への助言・指導・調整				
	第 3回	家族関係と介護ストレスへの対応①				
	第 4回	家族関係と介護ストレスへの対応②				
	第 5回	介護におけるチームのコミュニケーション① 意義・目的				
	第 6回	介護におけるチームのコミュニケーション② 報告・連絡・相談				
	第 7回	介護におけるチームのコミュニケーション③ 記録の意義・目的・種類				
	第 8回	介護におけるチームのコミュニケーション④ 記録の方法と書き方				
	第 9回	介護におけるチームのコミュニケーション⑤ 記録の実際①				
	第10回	介護におけるチームのコミュニケーション⑥ 記録の実際②				
	第11回	介護におけるチームのコミュニケーション⑦ 会議・議事進行・説明の技術				
	第12回	事例検討に関する技術				
	第13回	情報の活用と管理のための技術				
	第14回	提出物作成、全体ふり回り				
	第15回	前期定期試験				
使用教材	最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版 /中央法規					
評価方法	筆記試験70% グループワーク・提出物30%					

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科 目 名	生活支援技術Ⅳ					
担当教員	荒井 るり子 ・ 平石 基樹					
実務経験	無 ☒ 有 (介護施設で介護福祉士として実務経験あり)					
学科学年	介護福祉科 2年	前期 ・ 後期	講義 ・ 実習	単位数		時間数 60
授業目標	・ 家事の重要性について学び、介護保険制度のなかでできる家事の介護の範囲を理解する。 ・ 各障害のある人の生活上の困りごとを理解し、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。					
授業内容	第 1回	自立した家事の介護	第 16回	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは		
	第 2回	自立に向けたそうじ・ごみ捨ての介護	第 17回	肢体不自由に応じた介護		
	第 3回	自立に向けた調理の介護①食事バランス	第 18回	視覚障害に応じた介護①		
	第 4回	自立に向けた調理の介護②衛生	第 19回	視覚障害に応じた介護②		
	第 5回	自立に向けた調理の介護③衛生	第 20回	聴覚・言語障害に応じた介護		
	第 6回	自立に向けた洗濯の介護①シミの種類	第 21回	重複障害に応じた介護		
	第 7回	自立に向けた洗濯の介護②洗濯マーク	第 22回	内部障害に応じた介護①		
	第 8回	自立に向けた裁縫の介護①	第 23回	内部障害に応じた介護②		
	第 9回	自立に向けた裁縫の介護②	第 24回	重症心身障害に応じた介護		
	第10回	自立に向けた裁縫の介護③	第 25回	知的障害に応じた介護		
	第11回	自立に向けた衣類・寝具の衛生管理の介護①	第 26回	精神障害に応じた介護		
	第12回	自立に向けた衣類・寝具の衛生管理の介護②	第 27回	高次脳機能障害に応じた介護		
	第13回	自立に向けた買い物の介護	第 28回	発達障害に応じた介護		
	第14回	家庭経営、家計の管理の介護	第 29回	難病に応じた介護		
	第15回	家事の介護における多職種連携	第 30回	まとめ・前期定期試験		
使用教材	最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 中央法規 最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版 中央法規 事例 DVD					
評価方法	・ 筆記試験 (60点) ・ ワークシート提出 (40点) ・ 演習参加度を加味する					

教務主任	学科長	担任
		

2025年度 シラバス

科目名	介護過程Ⅲ						
担当教員	石川 幸子						
実務経験	無 / 有 (高齢者施設において介護支援専門員として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科/ 2年	前期 ・ 後期	講義 ・ 実習	単位数		時間数	30/60
授業目標	①多くの事例を使って介護過程を展開することで、科学的思考の意識づけができる。 ②介護支援が根拠に基づいて行われていることがわかる。						
授業内容	第 1回	介護過程とは (復習)					
	第 2回	介護過程の実践的展開①－ 1 (個人ワーク)					
	第 3回	介護過程の実践的展開①－ 2 (個人ワーク)					
	第 4回	介護過程の実践的展開①－ 3 (グループワーク)					
	第 5回	介護過程の実践的展開②－ 1 (個人ワーク)					
	第 6回	介護過程の実践的展開②－ 2 (個人ワーク)					
	第 7回	介護過程の実践的展開②－ 3 (グループワーク)					
	第 8回	介護過程の実践的展開③－ 1 (個人ワーク)					
	第 9回	介護過程の実践的展開③－ 2 (個人ワーク)					
	第10回	介護過程の実践的展開③－ 3 (グループワーク)					
	第11回	介護過程の実践的展開④－ 1 (個人ワーク)					
	第12回	介護過程の実践的展開④－ 2 (個人ワーク)					
	第13回	介護過程の実践的展開④－ 3 (グループワーク)					
	第14回	介護過程の実践的展開⑤－ 1 (個人ワーク)					
	第15回	介護過程の実践的展開⑤－ 2 (個人ワーク)					
使用教材	最新介護福祉士養成講座 9 介護過程(第2版) 中央法規出版						
	適宜事例やワークのプリントを使用						
評価方法	1. 前期末試験 50%						
	2. 課題 20%、まとめレポート 30%						
	授業の取り組み姿勢などから必要に応じ5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
			 

2025年度 シラバス

科目名	介護過程Ⅲ						
担当教員	石川 幸子						
実務経験	無 ☒ 有 ☐ （ 高齢者施設において介護支援専門員として実務経験あり ）						
学科学年	介護福祉科/ 2年	☒ 前期 ・ 後期	☒ 講義 ・ 実習	単位数		時間数	30/60
授業目標	①介護におけるチームアプローチの必要性について、説明できる。 ②介護過程とケアマネジメントとの関連について説明できる。 ③チームアプローチにおける介護福祉士の役割について、具体的に説明できる。 ④介護福祉に関する職種の根拠法や役割（仕事内容）、就業場所などについて説明できる。						
授業内容	第16回	実習での受け持ち事例のまとめ①					
	第17回	実習での受け持ち事例のまとめ②					
	第18回	受け持ち事例の発表①					
	第19回	受け持ち事例の発表②					
	第20回	受け持ち事例の評価① 情報収集					
	第21回	受け持ち事例の評価② 分析					
	第22回	受け持ち事例の評価③ 立案・実施					
	第23回	受け持ち事例の評価④ 評価、レポート作成					
	第24回	ケアマネジメントの全体像					
	第25回	ケアプランと個別援助計画の関係性					
	第26回	ケアカンファレンス					
	第27回	ケアカンファレンスの実際 事例での展開①（映像学習）					
	第28回	ケアカンファレンスの実際 事例での展開②（個人ワーク）					
	第29回	ケアカンファレンスの実際 事例での展開③（グループワーク）					
	第30回	前期定期試験					
使用教材							
評価方法							

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科目名	介護過程Ⅳ						
担当教員	荒井 るり子						
実務経験	無 ☒ 有 ☐ (介護施設で介護福祉士として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科/ 2年	前期 ・ ☒ 後期	講義 ・ ☒ 実習	単位数		時間数	30
授業目標	①チームアプローチでの介護職の役割が理解できる。 ②ケアプランと個別援助計画の関係性がわかる。						
授業内容	第1回	チームアプローチの意義					
	第2回	チームでの介護福祉職の役割					
	第3回	チームアプローチの実際 事例での展開① (個人ワーク)					
	第4回	チームアプローチの実際 事例での展開② (個人ワーク)					
	第5回	チームアプローチの実際 事例での展開③ (グループワーク)					
	第6回	チームアプローチの実際 事例での展開④ (R Pでの発表)					
	第7回	各専門職の視点①					
	第8回	各専門職の視点②					
	第9回	多職種協働の実際① 実習での事例 (個人ワーク)					
	第10回	多職種協働の実際② 実習での事例 (グループワーク)					
	第11回	多職種協働の実際③ 実習での事例 (発表準備)					
	第12回	多職種協働の実際④ 実習での事例 (発表準備・発表)					
	第13回	多職種協働の実際⑤ 実習での事例 (発表)					
	第14回	介護過程展開のまとめ					
	第15回	後期定期試験					
使用教材	最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版 中央法規出版						
評価方法	1. 後期末試験 70%						
	2. 課題 (事例レポート 30%)						
	授業の取り組み姿勢などから必要に応じ5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
			

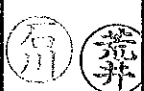
2025年度 シラバス

科目名	介護総合演習Ⅲ						
担当教員	田井 朋子						
実務経験	無 / (有) (介護施設にて介護福祉士として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科2学年	前期 ・ 後期	講義 ・ (実習)	単位数		時間数	30
授業目標	1. 施設の特徴を理解し、心身状況に合わせた生活支援技術を行う意義を理解できる。 2. 現場実習を通して各領域で学んだ知識と技術を統合・深化することで、より専門職としての姿勢・態度を身につけることができる。						
授業内容	第 1回	演習ガイダンス、 介護実習Ⅱの意義・目的					
	第 2回	施設実習の理解① 施設の特徴					
	第 3回	施設実習の理解③ 個人票作成、実習経路の確認					
	第 4回	実習施設あいさつ					
	第 5回	実習施設あいさつ					
	第 6回	施設実習の準備① 実習中の注意事項、心構え、介護過程の展開について①					
	第 7回	施設実習の準備② 介護過程の展開について②					
	第 8回	施設実習振り返り① 記録物の確認					
	第 9回	施設実習振り返り② 礼状書き					
	第10回	施設実習振り返り③ 統括レポート					
	第11回	施設実習振り返り④ 統括レポート					
	第12回	その他の施設の理解① 養護老人ホーム、グループホーム					
	第13回	その他の施設の理解② 軽費老人ホーム、障害者支援施設					
	第14回	その他の施設の理解③ 医療型障害児施設、療養介護施設					
	第15回	前期定期試験					
使用教材	適宜、プリントを配布						
評価方法	筆記試験70% 、 ワークシート30%						
	授業参加時の意欲、提出物などにより、5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
	菅井	石川	石川 菅井

2025年度 シラバス

科目名	介護総合演習Ⅳ						
担当教員	田井 朋子						
実務経験	無 / (有) (高齢者施設で介護福祉士として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科2学年	前期 ・ (後期)	講義 ・ (実習)	単位数	/	時間数	30
授業目標	1. 介護福祉士と多職種との連携の重要性について理解することができる。 2. 個別性に応じた質の高い介護実践ができるための知識・技術を統合できる。 3. 介護福祉士としての視点をもち、自己の介護観を報告することができる。						
授業内容	第 1回	演習ガイダンス、 実習施設の理解① 実習の目的・目標					
	第 2回	実習施設の理解② 実習要項の内容、実習時間等					
	第 3回	実習施設の理解③ 個人票作成、実習経路の確認					
	第 4回	実習施設あいさつ					
	第 5回	実習施設あいさつ					
	第 6回	施設実習準備 自己課題の明確化、実習報告の内容検討					
	第 7回	施設実習ふり返り① 記録物の確認					
	第 8回	施設実習ふり返り② 礼状書き					
	第 9回	施設実習ふり返り③ 統括、介護観の形成レポート					
	第10回	実習報告会準備① パワーポイント作成①					
	第11回	実習報告会準備② パワーポイント作成②					
	第12回	実習報告会準備③ パワーポイント作成③					
	第13回	実習報告会					
	第14回	実習報告会 、 全体まとめ					
	第15回	後期定期試験					
使用教材	適宜プリントを配布する。						
評価方法	筆記試験70% 、 ワークシート30%						
	授業参加時の意欲、提出物などにより、5点以内の加点						

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科 目 名	介護実習Ⅱ－2						
担当教員	石川 幸子・荒井 るり子・田井 朋子・松原 照子・平石 基樹						
実務経験	無 / (有) (高齢者施設等での介護業務等の実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科 2年	(前期) ・ 後期	講義 ・ (実習)	単位数		時間数	120
授業目標	①介護過程が実践的に展開できる。 ②利用者個々の個別性に合わせた支援が理解できる。						
授業内容	第 1回	1日目	コミュニケーション障害のある利用者との関りを持つ。				
	第 2回	1日目 ～ 15日目	利用者の個別性に合わせた生活支援技術を実践する。①				
	第 3回		利用者の個別性に合わせた生活支援技術を実践する。②				
	第 4回		介護過程展開の、情報収集のためのかかわりや記録物の閲覧を行う。				
	第 5回		介護過程の実践的展開のためのアセスメントの助言を受け、				
	第 6回		自身で利用者のニーズの選定を実施する。①				
	第 7回		介護過程の実践的展開のためのアセスメントの助言を受け、				
	第 8回		自身で利用者のニーズの選定を実施する。②				
	第 9回		指導のもと、立案した計画を実施する。				
	第10回		指導のもと、介護過程展開全体の振り返り・評価をする。				
	第11回		実習指導者や指導担当者からの指導・指示を受け、自身の振り返りを行う。				
	第12回		巡回指導を受け、行った内容の振り返りや修正をおこなう。				
	第13回		職員間の情報共有の場に参加・見学を行う。				
	第14回		実習記録作成のため、学生同士の情報共有を図る。				
	第15回	15日目	カンファレンスに参加し、実習のまとめを行う。				
使用教材	最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 (第2版) 中央法規出版 その他適宜必要テキスト、各授業で配布した資料等を活用する						
評価方法	実習施設指導者と担当教員の双方から評価する。 実習態度、利用者理解、生活支援技術の実践、介護過程の展開等の内容で評価する。						

	教務主任	学科長	担任
	(章)	(石)	(石) (荒)

2025年度 シラバス

科 目 名	介護実習Ⅱ－3						
担当教員	石川 幸子・荒井 るり子・田井 朋子・松原 照子・平石 基樹						
実務経験	無 / (有) (高齢者施設等での介護業務等の実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科 2年	前期 ・ (後期)	講義 ・ (実習)	単位数		時間数	130
授業目標	①他職種協働の実際を知る。 ②チーム内での介護福祉職の役割を理解し、専門職としての視点が身につく。						
授業内容	第 1回	1日目	コミュニケーション障害のある利用者との関りを持つ。				
	第 2回	1日目 ～ 16日目	利用者の個性に合わせた生活支援技術を実践する。①				
	第 3回		利用者の個性に合わせた生活支援技術を実践する。②				
	第 4回		利用者の個性に合わせた生活支援技術を実践する。③				
	第 5回		他職種や介護職間での連携を意識した介護実践を行う。①				
	第 6回		他職種や介護職間での連携を意識した介護実践を行う。②				
	第 7回		介護支援の手順や留意点の説明を受け、根拠を考える機会を作る。				
	第 8回		多職種協働の実践の理解のため、他職種のカンファレンスを見学する。				
	第 9回		他職種からの説明を受けたり、他職種の利用者との関りを見学する。				
	第10回		職員間の連携の実際を学ぶ機会を作る。				
	第11回		実習指導者や指導担当者からの指導・指示を受け、自己の改善をはかる。				
	第12回		巡回指導を受け、行った内容の振り返りやまとめを行う。				
	第13回		介護福祉士の専門性を考える機会を作る。				
	第14回		学生同士の情報共有を図り、介護観形成の取り組みの機会を持つ。				
	第15回	16.5日目	カンファレンスに参加し、実習のまとめを行う。				
使用教材	最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 (第2版) 中央法規出版 その他適宜必要テキスト、各授業で配布した資料等を活用する						
評価方法	実習施設指導者と担当教員の双方から評価する。 実習態度、利用者理解、生活支援技術の実践、介護過程の展開等の内容で評価する。						

	教務主任	学科長	担任
	菅井	石川	石川 荒井

2025年度 シラバス

科 目 名	発達と老化の理解						
担当教員	坂入 啓太						
実務経験	無 / (有) (介護支援専門員としての経験あり)						
学科学年	介護福祉科 2 学年	前期 ・ 後期	講義 ・ 実習	単位数		時間数	30/60
授業目標	1. 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するための基礎的知識を学ぶ。						
授業内容	第 1回	ガイダンス 成長・発達の考え方①					
	第 2回	成長・発達の原則・法則 ②					
	第 3回	成長・発達に影響する要因 ③ 演習1-1・演習1-2					
	第 4回	発達理論① 発達理論とはどういうものか					
	第 5回	発達理論② ピアジェ、エリクソン、バルテスの発達理論					
	第 6回	発達理論③ 各発達段階の特徴					
	第 7回	身体機能の成長・発達① 身長・体重の変化、身長・体重の成長の評価					
	第 8回	身体機能の成長・発達② 発達にともなう特徴的な疾病や障害					
	第 9回	心理的機能の発達① ピアジェの認知発達理論					
	第10回	心理的機能の発達② 言語発達の理論					
	第11回	社会的機能の発達① 乳児期・学童期・青年期の社会性の発達					
	第12回	社会的機能の発達② 愛着の発達、道徳・向社会的行動					
	第13回	社会的機能の発達 ③ 演習2-1・2-2・2-3・2-4					
	第14回	人間の成長と発達の総まとめ					
	第15回	まとめ（前期定期試験）					
使用教材	『最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解(第2版)』中央法規2022						
評価方法	筆記試験(80%) 小テスト・課題 (20%) (前期40%)						
	授業態度を加味する。						

	教務主任	学科長	担任	
				

2025年度 シラバス

科 目 名	発達と老化の理解						
担当教員	松原 照子						
実務経験	無 / <u>有</u> （大学病院で看護師としての経験あり）						
学科学年	介護福祉科 2 学年	前期 ・ <u>後期</u>	講義 ・ <u>講義</u>	単位数		時間数	30/60
授業目標	1. 老化にともなう心と体の変化と生活を理解する 2. 高齢者に多く見られる疾患とその影響、健康維持・増進を含めた生活支援の基礎的知識を理解する。						
授業内容	第 1回	ガイダンス					
	第 2回	老年期の特徴と発達課題	老化の定義・老化とは				
	第 3回	老年期の発達課題	さまざまな発達理論における老年期				
	第 4回	老年期の発達課題	人格と尊厳・老いの価値、喪失体験				
	第 5回	老年期の発達課題	セクシュアリティ・老年期をめぐる今日的課題				
	第 6回	老化にともなう心と体の変化と生活	①身体的な変化と生活への影響				
	第 7回	老化にともなう心と体の変化と生活	②心理的な変化と生活への影響				
	第 8回	老化にともなう心と体の変化と生活	③社会的な変化と生活への影響				
	第 9回	高齢者と健康					
	第10回	高齢者に多い症状・疾患の特徴	①				
	第11回	高齢者に多い症状・疾患の特徴	②				
	第12回	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	①				
	第13回	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	②				
	第14回	老化に伴うこころとからだの変化と生活の総まとめ					
	第15回	まとめ（後期定期試験）					
使用教材	『最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解(第2版)』中央法規2022						
	『見て覚える！介護福祉士国試ナビ』2022						
評価方法	筆記試験100%（後期60%）授業態度を加味する。						

教務主任	学科長	担任	
			

2025年度 シラバス

科目名	障害の理解Ⅱ						
担当教員	瀬畑 仁美他7名						
実務経験	無 ☒ 有 (大学病院等で看護師として実務経験あり)						
学科学年	介護福祉科2年	前期 ・ ☒ 後期	☒ 講義 ・ 実習	単位数		時間数	30
授業目標	障害福祉に関する法体系と社会資源を理解する。また、障害のある人と家族の心理を理解し、各種専門職の連携と協働から、具体的な支援について学ぶ。						
授業内容	第 1回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ① 聴覚・言語障害					
	第 2回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ② 重複障害					
	第 3回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ③ 内部障害					
	第 4回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ④ 内部障害					
	第 5回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ⑤ 内部障害					
	第 6回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ⑥ 高次脳機能障害					
	第 7回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ⑥ 高次脳機能障害					
	第 8回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ⑥ 難病等					
	第 9回	障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ⑥ 難病等					
	第10回	連携と協働 ①地域のサポート体制					
	第11回	連携と協働 ②地域のサポート体制					
	第12回	連携と協働 ③チームアプローチ					
	第13回	家族への支援 ①障害を持つ人の家族の状況					
	第14回	障害者の就労支援					
	第15回	後期定期試験					
使用教材	『最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解』（第2版）中央法規2022						
評価方法	筆記試験100% 授業態度を加味する。						

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科 目 名	医療的ケア						
担当教員	松原 照子						
実務経験	無 / (有) (大学病院にて看護師としての経験あり)						
学科学年	介護福祉科／2学年	(前期) ・ 後期	(講義) ・ 実習	単位数		時間数	60/90
授業目標	1. 医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎知識を学ぶ						
授業内容	第 1回	医療的ケアとは、医行為について		第16回	子供の吸引・家族の気持ちと対応、説明と同意		
	第 2回	喀痰吸引制度（社会福祉及び介護福祉法）		第17回	呼吸器系の感染と予防		
	第 3回	医療的ケアと喀痰吸引等の背景		第18回	口腔内吸引時に想定されるリスクと対応		
	第 4回	安全な療養生活		第19回	演習2-1 演習2-2		
	第 5回	救急蘇生、AED 演習1-3・1-4・1-5		第20回	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順		
	第 6回	清潔保持と感染予防 標準的予防策		第21回	経管栄養の基礎的知識・実施手順		
	第 7回	清潔保持と感染予防 消毒と滅菌		第22回	経管栄養の基礎的知識・実施手順		
	第 8回	健康状態の把握		第23回	子供の経管栄養について		
	第 9回	バイタルサイン・SP02測定、演習1-8		第24回	経管栄養時に想定されるトラブルと対応		
	第10回	急変状態について		第25回	演習 3-1 3-2 3-3 3-4 3-5 3-6		
	第11回	急変時の対応と事前準備		第26回	経管栄養実施手順 必要物品・清潔保持		
	第12回	演習 救急法		第27回	経管栄養実施手順 経管栄養の技術と留意点		
	第13回	喀痰吸引（基本的知識・実施手順）		第28回	経管栄養実施手順 演習3-7～演習3-10		
	第14回	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論		第29回	医療的ケア・喀痰吸引・経管栄養の総復習		
	第15回	人工呼吸器と吸引		第30回	まとめ（前期定期試験）		
	使用教材	『最新 介護福祉士養成講座15 療的ケア』中央法規2022. 第2版					
	DVDで学ぶ喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点 中央法規						
評価方法	・ 講義時間数および技術演習については国の規定(テキストP. 23)を遵守する。						
	・ 基本研修を修了した学生が定期試験を受験できる。						
	・ 定期試験：筆記試験100% ・ 授業態度 ・ 実技評価						

	教務主任	学科長	担任
			

2025年度 シラバス

科 目 名	医療的ケア						
担当教員	松原 照子						
実務経験	無 / (有) (大学病院にて看護師としての経験あり)						
学科学年	介護福祉科／2学年	前期 ・ (後期)	講義 ・ (実習)	単位数		時間数	30/90
授業目標	1. 医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎知識を学ぶ						
授業内容	第 1回	ガイダンス 演習ノートの書き方・指示書の見方					
	第 2回	口腔内・鼻腔内吸引のデモンストレーションと留意点 演習				実践①	
	第 3回	口腔内・鼻腔内の吸引				演習 実践②	
	第 4回	口腔内・鼻腔内の吸引 テスト			演習 実践③		
	第 5回	気管カニューレ内部の吸引のデモンストレーション				演習 実践①	
	第 6回	気管カニューレ内部の吸引				演習 実践②	
	第 7回	気管カニューレ内部の吸引 テスト			演習 実践③		
	第 8回	経鼻経管栄養のデモンストレーション				演習 実践①	
	第 9回	経鼻経管栄養				演習 実践②	
	第10回	経鼻経管栄養 テスト			演習 実践③		
	第11回	胃ろう（PEG）のデモンストレーション				演習 実施①	
	第12回	胃ろう（PEG）				演習 実施②	
	第13回	胃ろう（PEG） テスト			演習 実践③		
	第14回	喀痰吸引・経鼻経管栄養・胃ろう（PEG）の総復習					
	第15回	まとめ（後期試験）					
使用教材	『最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア』中央法規2022. 第2版						
	DVDで学ぶ喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点 中央法規						
評価方法	・ 講義時間数および技術演習については国の規定(テキストP. 23)を遵守する。						
	・ 基本研修を修了した学生が定期試験を受験できる。						
	・ 定期試験：筆記試験100%		・ 授業態度		・ 実技評価		

	教務主任	学科長	担任
			